

南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等(第二次報告)及び被害想定(第一次報告)について

◆ 10mメッシュの津波高、浸水域

○津波高

- 50mメッシュに対し、10mメッシュの津波高の変化は概ね±1mの範囲。
- 微細な地形が反映されたことで、崖地など局所的に津波高が数m変わった所もある。
- 各市町村の津波高の最大値に加え、各市町村の津波高の平均値を算出し、合わせて整理した。

○浸水域

- 浸水深がわかるよう想定浸水域を整理した。

◆ 防災対策を実施することによる効果(例)

○耐震化を推進

全壊建物棟数 (現在の耐震化率79%)	627,000棟	
	↓	
(耐震化率90%)	361,000棟	4割減
	↓	
(耐震化率95%)	240,000棟	6割減

○避難の迅速化

津波による死者
(早期避難率が低い場合) 約108,000人～約224,000人

(全員が直後に避難
+
津波避難ビル)

約8,000人～約52,000人 最大9割減

◆ 想定被害の比較

○被害が最大となるケースと東北地方太平洋沖地震との比較

	マグニチュード ※1	浸水面積	浸水域内人口	死者・行方不明者	建物被害 (全壊棟数)
東北地方太平洋沖地震	9.0	561km ²	約62万人	約18,800人※2	約130,400棟※2
南海トラフ巨大地震	9.0(9.1)	1,015km ² ※3	約163万人※3	約323,000人※4	約2,386,000棟※5
倍率		約1.8倍	約2.6倍	約17倍	約18倍

○被害が最大となるケースと2003年東海・東南海・南海地震想定*との比較

* 中央防災会議東海・南海地震等に関する専門調査会「東南海・南海地震の被害想定について」(平成15年9月17日)における「想定東海地震、東南海地震、南海地震の震源域が同時に破壊される場合」

	マグニチュード ※1	浸水面積	浸水域内人口	死者・行方不明者	建物被害 (全壊棟数)
2003年想定	8.7(8.8)	—	—	約24,700人※6	約940,200棟※7
南海トラフ巨大地震	9.0(9.1)	1,015km ² ※3	約163万人※3	約323,000人※4	約2,386,000棟※5
倍率		—	—	約13倍	約2.5倍

※1:()内は津波のMw、※2:平成24年6月26日緊急災害対策本部発表、※3:堤防・水門が地震動に対して正常に機能する場合の想定浸水域、※4:地震動(陸側)、津波ケース(ケース①)、時間帯(冬・深夜)、風速(8m/s)の場合の被害、※5:地震動(陸側)、津波ケース(ケース⑤)、時間帯(冬・夕方)、風速(8m/s)の場合の被害、※6:時間帯(5時)の場合の被害、※7:時間帯(18時)の場合の被害

◆ 南海トラフ巨大地震対策検討の今後の予定

○地域全体として統一的・実効的な対策を推進するため、南海トラフ特別措置法の制定に向けて検討

○南海トラフ巨大地震対策ワーキンググループの検討

- 経済被害、様々な被害シナリオを含めた被害想定全体像
- 予防対策、応急対策、復旧・復興対策
- 「対策の全体像」をとりまとめ(冬)

○防災計画等への反映

- 防災基本計画の改定
- 南海トラフ巨大地震対策大綱
- 地震防災戦略
- 応急対策活動要領